

# 応援熱くナイン後押し

## 光星センバツ初戦快勝



好プレーに沸く八学光星のスタンド。21日、甲子園

兵庫県西宮市の甲子園球場で行われた第88回選抜高校野球大会(センバツ)で21日、初戦を迎えた八戸学院光星高のスタンドでは、熱い応援が展開された。昨夏は県大会決勝で敗れ出場はかなわず、応援団にとっても昨春以来、1年ぶりの「聖地」。開星(島根)を6-1で下すと、関係者は誇らしげに校歌を口ずさんだ。

## スタンド好プレーに沸く

生徒や引率教員など応援団や野球部員は約210人。プラスバンド部やチャリディング部がおなじみの応援歌で盛り上げた。4月から3年になるプラスバンド部の中山亜美部長(17)は「昨夏は来られずに久しぶり。選手に届くような演奏で応援を引っ張りたい」と張り切って演奏していた。

## チーム信じ留守番部隊も歓喜

八戸市の八学光星高では、留守番部隊の運動部生徒や教職員計87人が、スクリーンに映した



テレビ中継を観戦。黄色いメガホンを手に、テレビから流れる吹奏楽の演奏に合わせて「光星、ここでかっ飛ばせよ」などと声援を送った。

3点先取した後、1点差まで詰め寄られる試合展開にも、生徒は不安な様子は見せず、選手を信じ切った様子。中盤に突き放して快勝すると、ガッツポーズを見せて喜ぶ人もいた。

4月から3年になるソフトテニス部の高田瑚海さん(17)は「打線が強くなった印象。何回も校歌を歌ってほしい」と喜んだ。橋場保人校長も「打席に入った時の威圧感が増した」と手応えを口にし、次戦に向けて「普段通りに頑張ってくれれば」とエールを送った。(桑田友人)

6回に光星が追加点を奪い、盛り上がる生徒ら=21日、八戸市の同校